特集２

豪雨被害

５地区が孤立

７月１１日夜から１２日にかけて香美市を襲った豪雨は、各地で甚大な被害をもたらし、物部町内では１００カ所以上の崩壊があり、５つの地区が孤立しました。

①豪雨により土砂崩れが発生した県道大豊物部線の復旧工事現場。この土砂崩れにより笹地区が孤立した。②県防災ヘリにより笹地区に残った住民へ物資輸送が行われた。③復旧工事前の県道大豊物部線。道路が寸断されており、中央奥に残った道路が見えている。

孤立集落復旧経過

７月11日夜から続いた豪雨は、笹地区で12日の午前２時から午前６時までの４時間に258㍉もの雨量を観測しました。

この集中豪雨により、物部町内では主要幹線道路が各地で寸断され、笹地区・久保和久保地区・桑ノ川地区・小谷地区・中津尾地区への車両通行ができなくなりました。特に、笹地区では電気や電話も不通となり、住民の安否が確認できない状況となりました。

災害発生の翌日13日午前８時からは、消防本部や県の消防防災ヘリコプターと連携し、笹地区の救助活動や他の地区の現地調査を開始した結果、笹地区で孤立していた地元住民７人、地区外住民５人、住友共同電力従業員２人、合計14人全員の安否を確認し、避難を希望した５人のうち、陸路での避難が困難な４人を消防防災ヘリにより物部町大栃の柳沢グラウンドへ輸送しました。

関係機関の懸命な復旧作業により、電力が同13日に復旧し、14日には電話回線も復旧しました。同23日には、県道大豊物部線の応急工事が完了したことから車両の通行が可能となり、避難していた地元住民も無事に帰宅しました。

久保和久保地区では、当該集落の約500㍍手前の林道が30㍍にわたり崩壊しました。13日午前に市職員が徒歩で現地調査に入り、住民の体調確認などを行い、２～３日分の非常食と飲料水を搬入し、その後も給水活動を実施しました。

同17日には、林道の崩壊現場の山側に仮設歩道を整備し、徒歩での生活物資の運搬が可能となりました。

桑ノ川地区と小谷地区では、同14日に市道桑ノ川線の一部が15㍍にわたり崩壊し、車両通行ができなくなりましたが、同日中に、林道河口落合線および作業道を迂回路として整備し、車両通行が可能になりました。

中津尾地区では、国有林道の路側が崩壊しましたが同17日には仮設道が設置され18日からは車両の通行が可能になりました。

④市道桑ノ川線が崩落し、桑ノ川地区と小谷地区が孤立した。⑤久保和久保地区に通じる林道が崩落し、同地区が孤立した。⑥市道別府土居新屋線付近の国道195号線（物部町別府）。排水路がつまり、谷に自然ダムができている。⑦⑥の自然ダムから市道別府土居新屋線に濁水が流れ込んでいる。道路も崩壊しているのが分かる。⑧数カ所で寸断された市道別府土居新屋線。道路が崩落し、谷に落ちている。